

平成29年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	保護者や地域の人材を活用した有機的な子育て支援プログラムの開発
事業実施代表者名	齊 藤 緑 附属函館幼稚園 副園長
実施附属学校名	附属函館幼稚園
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>附属函館幼稚園では、平成22年度に全国の国立附属学校では初となる預かり保育を開始して以来、園のスタッフや保護者・地域・小学校・大学の人材などが協力して、「預かり保育」や「子育て支援事業」を展開することによって、「通常の保育活動」と「預かり保育活動」の有機的な連携を図り、その教育効果を高めることや、保護者の互助によるより豊かな子育て支援の場と経済性を兼ね備えた新しい「預かり保育」の形態を次の4つの場として提案し、事業を展開してきた。</p> <p>①「家庭生活との連続性を考えながら、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で過ごすことができる場」</p> <p>②「教育課程に関わる保育時間や家庭では経験できない活動、かかわりを体験することができる場」</p> <p>③「子育てに関する情報を得、保護者同士が気軽に相談でき、保護者の子育てを具体的に支援する場」</p> <p>④「保護者を含む地域の人的資源を活用することにより、在園児全員の成長にかかわる連携的意識を醸成する場」</p> <p>これを受けて、「わくわくの日（異年齢の友だちとともに好きな遊びをしながら、家庭的な雰囲気の中で過ごす日）」、「イベントの日（お母さん先生や外部講師の方などが来て、事前に企画した楽しい活動をして過ごす日）」、「講座の日（外部講師が来て、何回かにわたり、子どもが楽しく取り組みながら習い事をする日）」、「学生企画の日」（本学のゼミ生や部活動・サークルなどの学生が、教育課程外の企画をし、園児と交流する日）」の4つの具体的な形態を作って預かり保育を行ってきた。今年度は毎日の預かり保育に加えて朝預かりと延長預かり、長期休業中の預かり保育も導入となり、質の向上はもちろん量をふやすこと、さらに定期的な学生企画の取り組みを実施し、互惠性のあるイベントや講座を多く実施してきた。そしてこれらを先進的な取り組みとして、全国や地域の幼稚園に求められた情報や資料の形にして提供してきた。</p>

<p>成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)</p>	<p>成果としては、毎朝・毎日及び夏季休業・冬季休業にも実施し預かり保育の充実をはかった。総回数198回、のべ2976人の園児が参加し、1回あたりの平均が15人、最大時には33人の参加があった。就業者にとっては待望の毎日の預かり保育実施となった。今年も大学の学生と教員が企画したゼミ生による預かり保育を計画的に実施し、園児と保護者に好評を得た。その他ダンス部のよさこい講座や、サッカー部のサッカー教室などを開催し、多くの参加者があった。イベントや講座では、キッズエアロビクスや、外国人の先生と中国語を使ったゲームなどを実施し、人気が高かった。お母さん先生では、英語で遊ぶ講座とダンスを行う講座などを行った。音楽鑑賞ではサクソフォンや歌の先生、ピアニストなどをお招きし、親子で演奏を楽しめる機会もつくった。茶道体験や日舞などもあり、日本の文化に親しむことも体験した。外部講師による「科学ショー」「もじあそび」「おとあそび」「パソコンあそび」も新設され、園児はより多様な体験を教育課程外に園内で経験できるようになった。</p> <p>おやつは、地域の店舗に依頼し特製のお菓子を用意したり、体に良い素材の多様なおやつを提供したりして工夫を凝らした。結果子供の好き嫌い克服にも繋がり、親子の良い食育活動となった。これらの取り組みは、来年度入園志願者の増加に確実に繋がっているため、一刻も早い預かり保育の部屋の設置を望んでいる。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>来年度から朝預かり・延長預かり・長期休業中も含む毎日の預かりが完全実施となる。子育て支援の見地からは、就業者のニーズに応じることが実質上可能となる。これにより、教育課程内の教諭と預かり保育担当の非常勤講師との打ち合わせや引継ぎをより綿密にしていく必要性が高まっている。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等)</p>	<p>HPで公開・園児募集案内で紹介・体験入園時に説明 ハコ・エール(フリーマガジン)連載中 NCV函館放送局テレビ放映 H29.4月 国立大学附属学校のすべて(東方通信社)掲載 北海道教弘だより 第130号 (株)北海道教弘</p>